



# 西小だより

山形市立西小学校  
令和8年3月16日  
校長 小林 聡

## ～ 旅立ちの日に ～

ツバキのつぼみがふくらみ、小鳥たちの楽しげなさえずりが聴こえます。

もうすぐ春。まもなく西小学校を巣立っていくかがやき学年75人で歌う最後の歌は『旅立ちの日に』。かがやき学年の子どもたちにぴったりの楽曲です。

『旅立ちの日に』が生まれたのは、1991年、秩父市立影森中学校。作詞は当時の校長小嶋登先生、作曲は音楽教員の坂本浩美先生です。「歌声が響く学校」を一つの柱にしていた校長先生に、「3年間、学校が変わる原動力になってがんばってくれた子どもたちにプレゼントを贈りたい。歌詞を作ってくださいませんか」と坂本先生がお願いし、「生徒には内緒で先生たちで練習をして、『3年生を送る会（小学校だと6年生を送る会）』で歌のプレゼントをしよう」ということになり、この曲が誕生しました。3年間一緒にがんばってきた卒業生たちのために、「感謝」の気持ちを込めてたった一度だけ歌うはずだったこの歌は、その後、多くの学校の卒業式で歌われるようになりました。

(埼玉県ペタンク・プール連盟「旅立ちの日に」特集より)

卒業を迎えたかがやき学年の子どもたちも、特に最高学年のこの1年、下級生のことをいつも気にかけて、自分たちができることを見つけ、よりよいものを創り出そうと本当によくがんばりました。明るく元気に高みを目指す集団に成長し、6年生が日に日に6年生らしくなっていく姿は頼もしいかぎりでした。

自分たちを支えてくれた多くの人たちへの「感謝」が込められた『旅立ちの日に』を、75人の歌声と一生懸命に歌う姿とともに、ずっと心に残しておきたいと思います。

### 旅立ちの日に

作詞 小嶋 登  
作曲 坂本 浩美

白い光の中に 山なみは萌えて  
遥かな空の果てまでも 君は飛び立つ  
限りなく青い空に 心ふるわせ  
自由を駆ける鳥よ 振り返ることもせず  
勇気を翼にこめて 希望の風にのり  
この広い大空に 夢をたくして

懐かしい友の声 ふとよみがえる  
意味もないいさかいに 泣いたあの時  
心かよったうれしさに 抱き合った日よ  
みんなすぎたけれど 思い出強く抱いて  
勇気を翼にこめて 希望の風にのり  
この広い大空に 夢をたくして

いま、別れの時  
飛び立とう 未来信じて  
弾む若い力信じて  
この広い 大空に



## ありがとう6年生！笑顔いっぱいの「六年生を送る会」

5年生を中心として、どの学年も丁寧に準備を進め、「6年生に喜んでもらいたいな」「6年生と楽しい時間を過ごして、ありがとうの気持ちを表したい」という気持ちがどんどん高まっていきました。

「六年生を送る会」は、1年生と手をつないで入場する6年生をけやきっ子班の2年生が一人一人紹介して始まりました。6年生は少し照れながらも、とても嬉しそうでした。

5年生代表の心のこもったあいさつ、創意工夫を凝らした劇「ありがとう6年生」には全校生の目が釘付けでした。6年生〇×クイズの中に「あっち向いてほい対決」「にらめっこ対決」「新聞ジャンケン対決」等、班の6年生と〇年生との対決企画もあって大盛り上がり！どの班も笑顔いっぱいになりました。プレゼントされた手作りのコサージュ、メダル、感謝の寄せ書きを手に、6年生は何度もメッセージを読んだり、にっこり微笑んだり、思わず涙が出たり、……これまでの思い出がよみがえり、心温まる会になりました。



## ～ **かがやき学年** から **きずな学年** へ ～

### 「児童会のカギ」と「6年生の思い」を引き継ぐ

「協力し合う やさしいけやきっ子」を目標に掲げ、1年間児童会活動を引っ張ってきた6年生から3～5年生への引継ぎ式を行いました。

「少しでもみんなが楽しいと思ってくれるように、何度も話し合い、工夫してきた」「大変だけど、一生懸命やるうちに『楽しい、またやりたい』に変わってきた」「5年生と一緒に活動してくれて心強かった」「ますますいい西小をみなさんの力でつくり上げてほしい」……6年生の気持ちを込めて話す言葉一つ一つが、真剣に聴く3～5年生に響いているようでした。

どの委員会も全校生のことを考え、活動を楽しみながら本当によくがんばったと思います。これまでがんばってきた満足感と感謝の気持ちが、次のリーダーである5年生の「いよいよ自分たちの番だ」という決意を新たにさせてくれました。

